

囲碁三昧

最近、囲碁会に加入。齢相応に、趣味の活動は鈍る。級友曰く、我々には再度、**教育**が要る。即ち、**今日行く**処がある事。身・心、共に健全に。“身”は行動力を保てばよし。 囲碁で、都心と近郊に、共に各々少なくとも毎週1度、打ちに行く。

“心”についても囲碁、ついでに酒。その心は、共に弱くなっても止められぬ。囲碁はお頭の活性化、適度の酒は潤滑油と心得る。細かな定石と大局観など、右脳、左脳を同時に使う。同窓や周囲を観察、凡そ碁打ちは長生きが多い。

数年前、瀬戸内にぶらり旅。棋聖、本因坊秀策の出身地、因島の秀策記念館に寄る。近くの秀策の墓、偶々寺の住人に挨拶“これで貴方は半目強くなります”とのご宣託。記念館で秀策の簡潔な言葉を書いた扇子があり、説明文で納得。

が終
互い
黒白

石)を片付けた後の、何もない

碁盤を見渡せば、戦った跡など、ひとかけらも残っていない“

“戦い
わり、
に、
(碁



これはラグビーのノー・サイドの精神と一致。対戦の終了時、レフリーは“ノー・サイド！”と叫ぶ。熾烈な肉弾戦が終わった途端、味方のサイド(側)も相手の側もない、皆同じ仲間だ。囲碁とラグビーの共通項を再認識。戦いに、節度あるべし。この扇子を手元に置き、自戒とする。 卒寿とて、何を卒業するのだろう。 終